

カナダガン調査グループでは、2011年2月から神奈川県丹沢湖、山梨県河口湖、静岡県田貫湖周辺にすむカナダガンに首環などの標識をつけて生態を調べています。カナダガンの移動や繁殖の状況をつかみ早期の対策につなげるのが目的です。



カナダガンってどんな鳥？

本来は北アメリカ大陸にすむガンの仲間です。日本にいるカナダガンは自分で飛んできたのではなく、飼育するために人間が持ち込んだものが逃げ出し、野外にすみつきました。このような動物を外来種といいます。

外来種とは、もともとその地域にいなかったのに、人間の活動によって他の地域から入ってきた生物のことを指します。昔からその土地にいた生物、生態系、私たち人間の生活に対して影響を与えるので世界各地で問題になっています。アライグマ、ブラックバス（オオクチバス・コクチバス）、オオキンケイギクなどがその例です。

富士山麓のカナダガン



1 なぜここにいるのですか？

飼われていたものが、逃げたか放されたと考えられています。一番古い記録は、1985年（昭和60年）1月に富士宮市で観察された成鳥2羽ですが、どこから来たのかわかっていません。

2 どうして野生化してはいけないのですか？

他所から持ち込まれた生きものには、天敵がおらず、もともとその地域にすんでいた生きものと営巣場所や食べ物をめぐる競争がほとんどありません。そのため、爆発的に数が増えたり、他の生きもの食物を食べてしまったりするなど、昔からある生きものどうしのつながり（生態系）に影響を及ぼす場合があります。

3 何羽くらいいるのですか？

静岡、山梨、神奈川で100羽程度と推測しています。（2011年12月現在）静岡県田貫湖と山梨県河口湖では、ほぼ毎年ヒナが確認されており、約25年を経て現在に至っています。その他の地域では、茨城県牛久沼、兵庫県神戸で家禽のガチョウとカナダガンの交雑個体が確認されています。

4 エサをねだりに来ます。与えても良いですか？

カナダガンにエサを与えるのは好ましくありません。飢餓による死亡を減らし、個体数の増加につながる可能性があるからです。カナダガンは水域で野生のカモ類と接触し、陸上で採食したり人とふれあう機会を持っていますが、人と動物（野生動物・家畜・家禽）の共通感染症を予防する観点から、直接的な接触は控えるべきです。



5 どのような被害がありますか？

現在、農作物・牧草の食害、野菜やイネの苗を踏む、牧草地・キャンプ場をフンで汚す被害が出ています。その他、ヒナや卵をまもるために、近くにきた人間を威嚇することがあります。海外では、農作物被害、フン害の他、バードストライク（飛行機や建造物への衝突）、水際の土手が崩れる、人への攻撃が報告されています。

6 カナダガンを獲ることはできますか？

外来種ですが、勝手に捕獲できません。最寄りの自治体から許可を受ける必要があります。



7 今後、さらにカナダガンが増えると、どのようなことが心配されますか？

今後、個体数が増え、分布域が拡大すると、ほかのカモ類とつがいになって子どもをつくる可能性があり、特に絶滅に瀕した稀少なシジュウカラガンとの交雑が心配されています。湿原の植生への食圧、農作物被害、池や湿地で繁殖する在来種と営巣場所を奪い合うことなどが考えられます。環境省は、この鳥を「要注意外来生物」に選定して、動向に注意をするように呼びかけています。

8 カナダガンを減らすにはどうしたらよいでしょうか？

外来種対策として早急に防除計画を立て、繁殖の抑制や野外からの個体除去といった積極的な対応が求められます。農作物の被害を防ぐ追い払いや有害駆除は、短期的な効果は見込めても、問題を先送りすることになってしまいます。対策が遅れるほど個体数が増えるため、駆除によって多くの命を奪わねばなりません。

カナダガンの詳しい情報はこちらをご覧ください
<http://www013.upp.so-net.ne.jp/crane/index.htm>